

令和3年度第2回 北九州市上下水道事業検討会 会議要旨

【日 時】 令和4年1月13日(木) 13:30~15:00

【場 所】 小倉北区役所庁舎 東棟8階 812会議室

【構 成 員】 小畑構成員、菊池構成員、齋藤構成員、佐藤構成員、平構成員、
福地構成員、三上構成員、柳井構成員、山野構成員、吉本構成員 (50音順)

【出席職員】 上下水道局長、総務経営部長、海外事業部長、水道部長、浄水担当部長、
下水道部長、下水道施設担当部長、総務課長、経営企画課長、営業課長、
広域事業課長、海外事業課長、計画課長、配水管理課長、浄水課長、水質試験所長、
下水道計画課長、施設課長、水質管理課長、経営企画課(事務局)

《議題及び報告》

◇議題

◆「令和3年度第1回北九州市上下水道事業検討会にかかるご意見等と対応」について事務局から説明

◆「令和3年度第1回北九州市上下水道事業検討会にかかるご意見等と対応」に関する質疑応答・意見

(構成員)

25番の水道用資機材の値上げについて、事業の進捗に影響がないか懸念している。

回答内容に優先度の再見直しや他事業調整等を行うとあるが、どのようにコストカットを行うかなど、もう少し具体的な内容について伺う。

(事務局)

昨年8月から10月にかけて管材料の値上げが相次ぎ、値上げ幅は10~15%程度となっている。

当該、管材料の上昇を加味して工事費にどの程度影響があるか試算を行った結果、10%であれば、工事費全体としては2.5%程度の値上げになると見込んでいる。

現計画を策定するにあたり、若干の値上げ幅を加味していたため、限られた予算の中で優先順位をつけて取り組むことで、今のところは何とかやっていると考えている。

(構成員)

物価上昇を元々見込んでおり、その範囲内に収まるため影響はあまりない、ということか。

(事務局)

近年、労務単価も毎年5%程度上昇しており、そのほかの諸経費の単価上昇もあるため、それらが積み重なると厳しくなるが、今のところはやっていると考えている。

(構成員)

13 番の出前講演をどのように展開していくかについて、依頼をベースに実施しているとのことだが、依頼をしてくる団体は元々意識が高い団体であると思われる。

浸水被害軽減のためには、浸水リスクが高い地域に対して、依頼がなくても上下水道局側から出前講演の実施を働きかけ関係者の意識を高めるといった、戦略的な展開も計画するとよいのではないかと思われる。

(事務局)

これまでの浸水被害の結果から、浸水リスクが高い地域については分かっていることから、浸水の状況を確認に行くときや、実際に整備を進める際など、様々な場面で地元の方々に説明してきたが、戦略的な出前講演の展開についても、今後検討していく。

(構成員)

コロナ禍の状況で、テレワークの活用などによって家で過ごす時間が増えているが、コロナ禍前後の水道料金の状況について、どのような違いがあるか、あるいはそれほど違いがないのかについて伺う。

(事務局)

令和2年度決算によると、水道料金収入が153億円で、前年度比較で約1.4億円減少している。

特徴としては、口径13mm・20mmの一般家庭の水量が増加、25mm以上の中口径・大口径の水量が減少しており、単価の高い中口径・大口径の水量が減ったことにより、水道料金全体としては減少している。

下水道使用料についても、147億円の収入があったが、水道と同じように、一般家庭の1ランク・2ランクは水量が増えているが、3ランク以上の大口使用者の水量が減少した結果、前年度と比較して約3.6億円が減少している。

水道料金・下水道使用料は例年減少傾向であったため、全てが新型コロナウイルス感染症の影響と捉えることはできないが、一般家庭は増加、事業者は減少という特徴が見られている。

(構成員)

18番の広報活動の実施について、より多くの市民に情報が届く手段を早急に検討してもらいたい。

また、参考資料12ページの副読本のWeb化について、昨年11月にキッズサイト作成のための撮影が行われた際、関連施設から依頼があり、自身も一部撮影に関わることとなった。

動画が完成次第、視聴できるようになると聞いているが、作成の見通し等について詳しく伺う。

(事務局)

コロナ禍にあり、イベント等によるPRが行いにくい状況となっているため、令和2年度から3年度にかけて、局内で広報ワーキングを立ち上げ、広報を行う対象や視点、手法について改めて検討を行った。

特に対象については、市民・お客さま全体から、メインの利用者であるファミリー層や、将来の担い手となる子どもや学生への発信を強化するよう、検討を行った。

また、対象に発信する手段についても、ホームページやSNS、動画等を活用することとし、その一環としてキッズサイトを作成しており、本市上下水道の質の高さや安全性、自然災害に備える取組とその大切さなどについて、動画やクイズを活用し、興味を持って、見て、考えてもらえるようなコンテンツを準備している。

ご協力いただいた動画については、YouTubeで幅広く視聴できるよう、準備を進めている。

キッズサイトについては今年度中に作成し、完成した際は、報道投げ込み、学校への紹介などを積極的に行い、安全・安心な水環境、信頼される上下水道事業の取組を積極的にPRしていく。

コロナ禍の中、即時性・広範性に優れたデジタルを活用した取組を進めていくよう考えている。

◇議題

◆「令和 2 年度決算概要」・「北九州市上下水道事業中期経営計画（H28～R2 年度）の達成状況」について事務局から説明

◆「令和 2 年度決算概要」・「北九州市上下水道事業中期経営計画（H28～R2 年度）の達成状況」に関する質疑応答・意見

（構成員）

水道事業の収益的収支について、計画と実績に乖離があることから、計画の精度をもう少し上げることができないかについて伺う。

（事務局）

予算や計画においては、渇水やその他不測の事態に備え、支出の方に予備的な経費も一部見込んでいることから、水道事業・下水道事業においては、例年決算時に数億円の乖離が生じている。

本年度からの計画においては、乖離が発生することを見込して、累積資金剰余で調整を行っている。

（構成員）

計画においては予備費としてバッファを持たせている結果、実績で乖離が出るというのであれば、その分、水道管や下水道管渠のリニューアルを前倒しで行うという考え方もあるかと思う。

ただ、最近の状況を鑑みると、風水害等に備えて予備費を設けておくという考え方も理解できる。

（構成員）

資料 3-5 によると、水道事業・下水道事業の地震対策のように予定よりも遅れている取組も見取れる。

見極めが難しいかもしれないが、予備的な経費を用いてももう少し事業費を増やしてもよかったのではないかと思われる。

財政計画は目標を達成し施設整備に投じた資金も予定通りと言いながらも、実際の工事の進捗には遅れが発生している。

現時点ではそれほど遅れてなくても、その遅れが積み重なると後年度の影響が大きくなってくる。

財政計画と事業計画とのバランスについて工夫が必要かと思われるので、今後検討するようお願いする。

（構成員）

下水道事業の決算について、使用料収入が予算・計画と比較して減少している一方、維持管理費等も減少しているとのことだが、令和 2 年度決算での経費回収率がどの程度であったかについて伺う。

（事務局）

令和 2 年度決算における経費回収率は、102%となっている。（後日回答）

（構成員）

資料 3-5 の d 評価としているものについて、当初目標を立てたときに想定していた条件のほか、上下水道局自身ではコントロールができない新たな外部条件が発生することもあるため、単純に数値上の目

標が達成できなかったからといって、必ずしも実施主体の努力が足りなかったということにはならないと考えている。

今回 d 評価だったものについて、上下水道局自身としてはどのように捉えているのか、局の努力が足りなかったのか、コントロール外の条件によりやむを得ないものだったのか、補足の説明を伺う。

(事務局)

d 評価のものは、具体的には埋立地に降った雨を下水で受け入れる予定だったものであるが、埋立地に降った雨が土壌に浸透していき地中に埋まっている集水管で集められていく過程や、集水管で集めた雨水を下水に流す前に貯めておく調整池などで水分が蒸発し、下水で受け入れる量が当初の見込みを大きく下回る結果となったためである。

コントロール外の条件によるものであったと考えているが、具体的に掲げた数値目標に達していないことから、d 評価としている。

(構成員)

資料 3-12、3-14、3-16 の各事業の企業債残高について、下水道事業と工業用水道事業については減少しているが、水道事業については増加しているため、水道事業についても減少させていくよう要望する。

(事務局)

料金収入が減少する中、施設整備にあたっては企業債が貴重な財源となっているが、世代間の負担の公平性や金利なども考慮しながら、できるだけ借入額を少なくできるよう検討していく。

(構成員)

アメリカで金利を上げる動きもあり、日本も含め世界的に金利が上がる可能性も出てくる。そういった点では、借入額を減らす努力は得策だと思われる。

(構成員)

昨年 10 月、関東において地震が発生して漏水事故が起きた際、作業員がマンホールに入り、肩まで水に浸かって復旧作業にあたる様子が報道された。

同様の漏水事故が起きた際は、現在のような寒季・冬季であっても、同じような作業を行うのか、ウエットスーツなどの防寒対策の準備がされているのかについて伺う。

また、以前は安全・安心と一緒に安価をうたっていたが、その安価という表現が外れている。

同様に浄水器の普及なども考慮して、おいしい水という表現も外されている。

これらについて、今後はアンケートなどを活用し、各家庭の浄水器の設置・普及の状況や、住民が求めているものが何であるのか、おいしい水を追求するのか、金額を重視するのかなどについて、きめ細かく情報収集・ニーズの把握に努めてもらいたい。

(事務局)

現在のような真冬に、地震等により漏水事故が発生した場合の対応については、昨年 10 月の東京での漏水は空気弁がずれたことが原因であり、根元の栓を閉める作業が行われたと報道されていた。

そのような事態になった際は、本市も同様の対応になるが、職員ではなく委託をしている緊急業者が実際の作業を行うことになる。

現状、委託業者においてウエットスーツを常備している状態ではないと思われるが、対応は可能であると考えている。

(事務局)

安価の件について、現在、福岡県内では最も安価な状態であるが、令和3年度からの10年間の基本計画を策定するにあたり、令和9年度に資金不足に陥る見込みとなった。

人口減少・節水機器の普及等により料金収入が減少する一方、材料費・労務単価の上昇により経費は増加しているが、増収対策・経費節減に取り組みつつ、料金改定の時期、改定率などについて、今計画期間中に検討を進めたいと考えている。

また、アンケートについては、北九州市・芦屋町・水巻町から100人程度の方に上下水道モニターになっていただいております。今後アンケートを実施する予定であるため、料金やおいしい水などについても質問項目に盛り込んで調査していく。

(事務局)

おいしい水について、元々本市では平成24年3月においしい水の水質目標を市独自で策定し、カビ集物質や残留塩素など6項目について北九州市水道事業中期経営計画の重点施策の一つとして位置付け取り組んだ結果、当該計画期間中に残留塩素を除く項目について成果目標を達成することができたとともに、残留塩素についても低減化に向けて取組を推進してきた。

令和元年度以降については、新型コロナウイルス感染症対策の一環ということもあり残留塩素の積極的な低減化は進めておらず、令和元年度のお客さまアンケート調査結果では、今後重点的に力を入れてしいものとして、安全な水の供給が約9割、おいしい水の供給については2割という結果であった。

これらを踏まえ、これまでのおいしい水に向けた取組は継続しつつ、安全・安心な水の供給に努めていきたいと考えている。

(構成員)

先日、自宅に漏水調査についてのお知らせの文書が投函されていた。

このような会に参加しているので、実際に漏水があった際は、上下水道局で修繕する部分と、所有者や使用者で修繕する部分があるのは知っているが、それを知らない住民や、どこに頼めばよいか分からない方も多くいる。

そのため、文書の作成・投函にあたっては、漏水があった場合の相談先についても記載があるとよいと感じた。

◇報告

◆「北九州市海外水ビジネス推進協議会設立10周年成果報告会（臨時総会）」について事務局から説明

◆「カンボジア国の水道と北九州市の活動の評価」について佐藤構成員から説明

(構成員)

現在、北九州市・JICAの象徴的な事業として世界に知られているプノンペン水道公社を訪れているが、浄水施設や都市開発の進む状況などから、北九州市の水ビジネスの取組が、水づくり、都市・国づくりに貢献していると感じている。

シェムリアップ水道公社の中央監視システム更新工事においては、基礎研修、操作説明なども含めて様々な面において関わっていることが確認できた。

また、シェムリアップ上水道拡張事業の現場においては、北九州市海外水ビジネス推進協議会の会員企業や、北九州ウォーターサービス、北九州市上下水道局からの派遣職員が事業に携わっている状況から、官と民の連携によって、海外水ビジネスが展開され、大きな成果を上げている状況が確認できた。

カンボジア国水道行政管理能力向上プロジェクトにおいては、水圧測定、運転状況のヒアリングなどを通じた現場指導の状況から、北九州市が培ってきた技術がカンボジアに根付いていることが確認できたとともに、施設整備だけでなく管理システム研修、評価委員会の料金決定における意見交換、企業会計研修の実施など、経営管理の面まで関わっていることも見て取ることができた。

これらのことから、本日の検討会において「国内外に貢献する上下水道」の目標達成状況について説明があったが、それらに加え、目に見えない大きな成果にも注目すべきであると考えている。

すなわち、浄水場の建設・拡張などの狭義の技術面での貢献から始まったものが、現在では料金や企業会計の適正化などの経営管理の強化にまで活動領域が広がり、職員の多能化としての経営効率性の推進や柔軟性を発揮する機会として活かされていることから、技術協力などを通じた国際的な貢献活動が、北九州市へ直接還元できる技術の蓄積の場となっていると評価できるものと考えている。

具体的には、料金や会計への関与については先ほど話にもあった料金の話に繋がり、海外での事業推進は今後北九州市自身が取り組む安全・持続・強靱といった課題に直結する活動となっている。

このように、海外貢献の活動は、今後の北九州市あるいは、近隣への広域化の活動に展開することができる取組であるとともに、インフラ部門の施設整備に止まることなく、現在は都市のマネジメントに携わっているということまで鑑みると、将来的な北九州市の水道・下水道の貢献に繋がる舞台装置としての意義・役割も果たしていると認められることから、海外貢献活動の重要性が高まっていると考えている。

（事務局）

構成員の皆さまにおかれては、新型コロナウイルス感染症の影響も懸念される中、検討会に参加いただき感謝申しあげる。

水道事業は全国的に厳しい経営環境に置かれており、昨年、他都市で水管橋が崩落し、1 週間の間、6 万世帯に影響を与えるという大きな出来事もあった。

本市としても他人事ではないと感じるとともに、責任の重さ、維持管理の重要性、バックアップ機能の重要性を再認識した。

本日、構成員の皆さまから、戦略的な広報、予算決算乖離、利用者ニーズの反映など、多くのご意見をいただいたが、今後も貴重な意見をいただき、それを踏まえてより効率的・効果的かつ、安全で安定的に事業を進めていきたいと考えているので、引き続きご協力をお願い申し上げます。